

対馬丸撃沈から 80 年 対馬丸から戦時の現実を学ぼう!

太平洋戦争後期に沖縄の学童疎開船「対馬丸」が米潜水艦に撃沈され、子どもを含む 1,484 人が犠牲になった事件から 8 月 22 日で 80 年を迎えました。

1944 年 8 月 21 日、対馬丸は那覇から長崎にむけて出港し、翌 22 日夜に鹿児島県・トカラ列島悪石島沖で魚雷をうけて撃沈しました。乗船した 1,788 人中、1,484 人が犠牲となりました。うち 784 人は学童でした。船体はいまま海底 870m の深さに沈んでいます。

午後 10 時頃、就寝している時に魚雷で攻撃され、10 分足らずと撃沈ということもあり、犠牲者の大半は脱出できず対馬丸と共に沈んだとされています。船から脱出した人たちは、真夜中の海に放り出され、イカダにしがみつきます。しかし、台風接近の影響で波も荒く、翌朝までに多くの人々が力尽き海底へと沈んでしまいました。



生存者を苦しめた箱口令(かんこうれい)

厳しい漂流を乗り越え救出されますが、警察や憲兵から「撃沈の事実は決して語ってはいけない」という「箱口令」が敷かれ、さらなる苦しみがはじまります。

いま対馬丸を語ることで平和を訴えよう!

この出来事を後世に残すために、那覇市に「対馬丸平和記念館」を 2004 年 8 月 22 日に開館しました。今を生きている私たちに夢と想いと希望、そして、平和への「課題」を指し示されています。

市民や子どもたちなど弱いものが殺されるのが戦争であり、二度と繰り返してはならず、その悲惨さを訴える記念館に訪れ、皆で対馬丸について語り合い、平和の重要性を訴えましょう!